

平成26年11月25日

第2次香芝市生涯学習推進基本計画策定委員会
会長 萩原雅也様

第2次香芝市生涯学習推進基本計画ワーキング部会
部会長 萩原雅也

第2回 第2次香芝市生涯学習推進基本計画に係るワーキング部会
からの意見具申について

標記の件につきまして、別紙のとおり報告致します。

ワーキング部会からの意見具申

1. 市民意識調査結果についての感想等について

- このアンケートのまとめは冊子の中に載せるのか、入るのであれば設問の中で男女別、年代別とあるが香芝市全体の校区の割合について、何パーセントと載せるのは、いかがなものかと思う。つまり、どこ、どこ校区は8%9%とは何なのか。人数割りで抽出された人数は決まっていると思う。パッと棒グラフ、折れ線グラフを見て、そこの方には、反対に反感を持たれるのではないかと思う。
- まとめだけであれば、数字さえ見ればわかるので書く必要はないと思う。まとめより考察を客観的な考察は難しいかも知れないが地域性を十分かんがみてされたらどうかと思う。
- 校区の意識調査について細かいデータは母数が非常に少ないので、データとしてあまり意味がないと思う。100、200とまとまった数が、ある校区については別として、10~20のところまでパーセントを入れてもあまり意味がない。そういう所は割愛してまとめた方がいい。
- p43の施設利用、満足度についてで、母数が少ないというのはあるが、距離感というのはあるのかなと思う。そういう意味では、近くにある所は、使いやすいくということをもとめられないかと思う。
- p2の年齢の欄で男女別は出ていない。女性と男性と思っても違ったり、仕事の内容も違ったり、家庭でも違ったりから、出て行きたいと思う人でも、家庭とか周囲の状況とかで出てこれないとか、そういうこともあるのではないかと思う。年齢の割合について男女を分けた方が深まるのではないかと思う。
- モナミホールについて、大きな箱ものをどういう風に、今後使っていくのかということも、アンケートの中から見られれば良かったのではないかと思う。
モナミホールのことについてp49には出ている。問17の下記の施設にはでていなくて、問18で全体の生涯学習の取組みについてはモナミホールは、入っている。単なる数字のまとめではなく、市民の意向や課題についての分析を入れたほうが良いのではないかと思う。
- 年齢のところ10歳代から始まっているが、もっと小さい方もスポーツとか参加されていると思うし、どういう形かはわからないが調査ができないかなと思う。
- 次回に向けてのアンケート調査を実施する場合には、ある程度見通して、こうなっているのではないかという問題意識をもって、ここここはクロスさせるとか、ここはこういう傾向がおそらく出てくるのではないかと、最初からアンケートをそのように設計しておかないと、後からデータに分析をかけるのに非常に難しいと思う。

2. 基本的構成（案）についての意見具申

① 文言加除等

- ・ p11 の「生涯を通して学べる環境づくり」の中にある出前講座のところで「高齢化が進み、地域に根差した教育機会の提供が求められていることから地域出前講座など」と言う表現をすれば、地域で充実した活動が求められている。といった、よりつながりが出てくると思う。
- ・ p 12 の「⑦全庁的な生涯学習推進体制の整備」をもう少し強く書いてはどうか。課題と書きながら「必要であります」とか「大前提だ」という形で書いているが現状は進んでいない。できていないということをここではっきり書いた方がいい。あるいは、この「全庁的な生涯学習推進体制の整備」を一番に持ってくるとか。それが香芝の生涯学習を語るうえで非常に重要だということをはっきりさせるということにつながると思う。
- ・ p 13 の「生涯学習社会におけるネットワークの構築」のところに「本市において地域福祉を推進する（地域福祉計画）が策定され地域においてサロンが開催されるなど、生涯学習と強いつながりを持った施策が進められている。」というような文言を入れると、よりネットワークがあり連携していると感じられる。つまり、地域福祉が進んでいるということが新たな課題で、それとの連携を具体的に盛り込むことを検討する必要がある。
- ・ p 15 の「①新たなまちづくりを見据えた生涯学習計画」の下から4行目の「地域で学ぶ」が多分、次のキーワードになると思う。ここは、「地域で学ぶ」だけではなく、「地域で学ぶ、地域に学ぶ」にしてはどうか。つまり、地域で活動するとともに、地域で新しい取り組みの優れたものを地域で学んでいくという姿勢が必要だと思うので、「地域に学ぶ」という言葉を使っていけばと思う。
- ・ p20 の重点的な取り組みとしては、「子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりのために……」とあるが、「健やかに育まれる環境」と言葉が続いてしまうからわからない。この「環境づくり」は全体にかかってくるのか。「健やかに育まれる」というのがどうか。もしくは「健やかに育つ」とか……
- ・ p 20 の「家庭の教育力の充実」の中で「子育てについて学ぶ余裕のない親」という記述があるが働きながら子育てをしていたり、ひとり親家庭、兄弟の多い場合など本当に子どもに手をかけられない現実を抱えている親もいる。その上、子どもは学校での顔、学童での顔、家庭での顔と違うので、教師、指導員からの声掛けをとの思いで「放課後子ども教室、学童保育所、家庭とのつながりを蜜にして親をサポートする。」というような文言を加えてはどうか。

② 施策提案

- ・ p 11 に生涯学習の出前講座という表現がある。これについて地域ごとの具体的な目標を作って遠方に出られない方のために何かできないかと思う。
退職者が増える中で「遊休農地」が多くなっているので、そういう所で何か活動できないか。例えば、幼稚園などでは芋ほりとか、ミカン狩りとかやっているがそんなことも含めて地域での活動ができないかと考えている。
- ・ p18 の基本目標にある「子どもと大人が育ちあう、子育てしやすい環境づくり」で施策の中にあつたらいいと思うのが、子育てを経験した年配の方とお話をするのは、経験上ホットしたり、言葉に助けられたりという経験もある。「世代間交流の場」をつくるということは考えていないのか。

- これについては、p22の基本目標である「2. 子どもと大人が育ちあう、子育てしやすい環境づくり」の具体的取り組み「家庭教育機能の充実」で「親同士の学びのネットワークの構築」となっているところに、「子育てを経験された方と交流しあう場づくり」という文言を必ず入れていくことで良いのではないかと。
- p18の基本目標である一つの「地域みんなで学びあう（協育による）生涯学習のまちづくり」のところで学校との関わりが出てきてもいいと思う……「学校に地域の人が集まってともに学びあう場をつくる。」とか「学校が地域の人と連携しながら子どもの学びをさらに進めていく」とか。又、福祉の話でも、地域のところで福祉と学校との連携とか。もう少し、具体的な項目としてあげたらいいのでは。
- p19からの重点事業としての取り組みで、対象は若い親を重点にしていると思う。若者世代も当然少子化、高齢化は一体に進んでいくけれど、お年寄りにも、もう少し何か考えてもいいのではないかと。
- p21 学校教育の充実での具体的取り組み内容のところで「キャリア教育の充実」とうたっているが、体験学習とか職場体験とかはあるけれど、それにもやはり市内の高校・大学との連携というものを入れながら、大学生がボランティアで中学生、小学生をとというような大学との連携を高めていくということが大事ではないか。確かにキャリア教育は大事だと思う。職場体験については、先生が各事業所を回り、頭を下げてやってくれませんかということが生涯学習には直接関係がないかもわからないが今考えていることは「学校コミュニティ協議会」というところで協力していこうじゃないか、企業の方にもお願いに行こうじゃないかということも考えている。
- p21の学校教育の充実のところで、大きな施策の捉え方としてであるが、幼保一元化も見据えたうえで学校教育の場で、今の基本計画において「生涯学習教育推進」というような文言を香芝ならでは教育長の一言で進むと思う。各学校長が集まって、もう少し生涯教育について、こういう点で小学校1年2年3年は、このレベルで、高学年はこのレベルで、中学校はこのレベルで、やはり道徳の授業も大事と今、国がやっているのと同時に郷土愛も含めて、そういう生涯教育につながる教育をやはり学校教育にも参画されるような、これは他の市町村にはないと思う。生涯学習と学校教育は違うという考え方が、まだ根強いものが残っていると思う。そんな時代ではないということ香芝市がやれたらいいと思う。もっと学校教育の力を借りながら進めたらいいと思う。
- p21の学校教育の充実の具体的取り組み内容のところで、環境教育について盛り込んでいくのはどうか。「エコミールズ」というグループのメンバーにもかかわっているが小学校4年生に「地域」という学びの中で家庭から出るゴミをいっぱい持っていき「缶や瓶、紙は再生できるよ」「ペットボトルのこれは香芝では燃えるゴミだけど集めているところがあるよ」というようなことを子どもに話して分別させるということをやっている。香芝の環境づくりを子育て、子どもの時代から、それは親の環境意識に反映していくことにつながると思う。そこで、具体的な取り組みのところで、「環境教育に関する地域との連携」とか「地域との連携による環境教育の一層の充実」とか学校教育の充実化、地域コミュニティの再生とかのところに入れていくのが良いと思う。
- p22の子どもと大人が育ちあう、子育てしやすい環境づくりでのことで、子育てを経験された高齢の方の知恵を生かすということ、高齢化が進むのがマイナスではない。高齢者の方が

持っている知恵とか。それが伝わるように、それが生かせるということがどこかにあったらいい感じがする。地域において、高齢者はすごく大事な人材で経験を沢山持っておられる。それを子育てに生かすとか、地域づくりに生かすというのは、もっと積極的にどこかに書いていいのではないか。重点事業で書かなくても、「地域で取り組む生涯学習の充実」という所に高齢者が持っている知恵を地域に反映し生かしていくという視点があったらいいと思う。また、子育てのところにもそういう人との交流の場を積極的に作っていくことが必要だと思う。

③ 計画の特徴（計画像）についての提言

- ・香芝の特性として子どもが増えているということは、日本では希少な地域だと思うので、子育て支援については、もう少し課題のところで打ち出してもいいのではないか。同時に高齢化が進んでいくという、そういう意味で香芝は特異な地域だと思う。

「創造的福祉社会」（著者 広井良典）という本を書かれた先生が言われているが、我々は高齢化と子どもの数を分けて考えがちだが、子どもの数と高齢者の数を足すと日本社会はV字になる。今子どもがどんどん減ってきて高齢者が増えてクロスしている。かつて子どもの数が多かったが子どもが減って高齢化が進むと、つまり地域で活動している人の数がこれから増えてくるということです。高齢者と子どもを我々は別々に考えているが両方みんな地域で暮らしている。外に働きに行かない。地域で住んでいる人の数は、日本ではV字回復するという。ひょっとしたら香芝は日本全体とは違うグラフになるのかなと思う。香芝は水平になるのか。ひょっとしたら急に上がるのかもしれない。

その中での生涯学習モデルとなる。やはり地域で子どもと高齢者がともにふれあって、地域で活動していくのに全力をあげていく。そのために地域で重なるような地域福祉の問題とか。子育ての新しい問題を進める全庁体制を作って、それが地域で総合的にいけるようにやっていく。そういう形が香芝の像に沿っているような気がする。そのあたりの問題意識をまた考えていただけたらと思う。

- ・香芝の香芝らしいということで、香芝モデルという言い方をした方が、ピントを絞り込んでくるのではないかと思う。あまりにも、たくさん引き散らすよりは、どこに焦点を置いたらという考えが良いと思う。色々文言が出てくるような、高齢者と子ども世代がどんどん増えてきているという特徴にピントを合わせるというのが、ひとつあるのではないかと思う。

④ 感想

- ・平成27年4月から、子ども・子育て支援制度がスタートする。これは幼児期の教育・保育地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていく内容的となっている。今回の生涯学習計画においても、子育て支援のことについて書かれているが、少し内容的に薄いのかなという所も感じられる。

- ・p21の学校教育の充実の「子ども読書活動の推進」で、これは図書館等と連携を取って読書率は上がってきているが、これはもっと充実したことを言うなら生涯教育、生涯学習を推進するなら、学校教育と非常に密接な関係にならないといけないと思う。

学校教育がすべて子どもの教育を担っているのだというのは、間違っていると思う。やはり、生涯教育があつての中の学校教育であつてということでもあると思う。

⑤ 基本理念について

- ・基本理念について、他市の状況を見ていくと（参考資料）、自立、充実した人生という着眼点のように思うので、考えた一つの提案として「学び、ふれあい、育ちあい」や「めぐり、めぐり、幸せなまちづくり香芝」とかいったことが考えられるのではないかと思う。

⑥ 基本的構成（案）からの質問

- ・今回の計画が実現したら素晴らしいことだと思う。これについての予算措置や要因などもあわせて今後考えていくことになるのか。